

# 塗装作業後に発生する欠陥と対策

欠陥内容	原因	対策
にじみ・ブリード	①下地に水系塗材を塗装(水可溶分のにじみ) ②異色の仕上塗材の塗装 ③塗装間隔が不十分 ④上塗材の溶剤溶解力が大きい場合	①溶剤系のシーラー等適切な下塗りを用いる ②にじみ易い色どうしの重ね塗りは避ける ③適切な塗装間隔を取る ④上塗材(又はうすめ液)を変更する
色分かれ	①混合不十分 ②うすめ液による過希釈 ③顔料粒子の分散性が異なる2色の混合	①十分に混合する ②ダレを生じると色別れが生じるので注意する ③はけ目が多いと色別れが目立ちやすいので注意する
つやの不良	①下地の著しい吸込み ②下塗材等の面の粗さ ③うすめ液が不適當で過希釈 ④薄塗の場合 ⑤白化の発生	①下塗材で吸込みを止める ②上塗材を重ね塗りする ③適切なうすめ液を使用する ④適度の厚さに塗るか重ね塗りする ⑤「白化」の項参照
つやむら	①下地の吸込みむら ②塗膜厚さの不均一等 ③塗り回数不足	①下地の吸込みが均一になるようシーラー又は下塗材の所定量を均一に塗る ②所定量を均一に塗る ③所定の塗り回数をまもる
透け・透けむら	①薄塗材や上塗材の塗付量不足 ②著しい膜厚の不均一	①所定の塗り回数で所定量を均一に塗る ②同上
メタリックむら	①蒸発速度の速い溶剤など不適當なうすめ液の使用 ②塗膜厚さの不均一 ③適正吹付け圧とその維持が不完全 ④ローラー塗装	①所定のうすめ液を使用する ②所定の塗回数で所定量を均一に塗装する ③コンプレッサーの空気圧、空気量およびガン機の調整を行い、同じ条件下で塗装する ④吹付けにより塗装する
色むら	①下地の養生不足および吸込みむら ②上塗材の品質(分散不良など) ③複層塗材などの溶剤形上塗材のうすめ液が不適當 ④複層塗材などの上塗材のタレ部、はけ部、ローラー耳部などにおける膜厚不均一	①下地を十分養生させる。また、下地の吸込みが均一になるようシーラー又は下塗材の所定量を均一に塗る ②上とざいを取り替える ③溶剤形上塗材のうすめ液は所定品を使用し、所定の希釈を行なう ④複層仕上塗材などの上塗材は、むら切りにより均一に塗る
乾燥不良	①低温多湿条件(水系塗材) ②通風が悪く、溶剤の蒸発が遅い場合 ③下地に水や油の付着	①極端な低温時および高湿度時の塗装は避ける ②通風、換気をよくする ③清浄な下地に調整する
反応硬化形材料の硬化不良	①基材と硬化剤の混合ミス ②冬季における著しい低気温 ③夏季形材料の冬季における施工	①硬化剤混合比の厳守十分な混合 ②著しい低気温下での施工は避けるか、採暖処置をとる ③夏季形、冬季型のある場合は使い分けをする
足場むら	①足場の裏、影部などの施工のしにくい箇所における吹 き継ぎ又は塗り継ぎ部のむら又は模様むら	①吹付けは、吹付け角度・距離を一定に保つようにし、均一に塗り付け
パターン違い	①薄塗材の骨材の大きさ、量の間違い ②施工道具の間違い(金ごてと木ごて、ガン口径の違いなど) ③塗付量、希釈のばらつき	①仕様に基づいて、事前に試し塗りし、仕上りを確認する ②同上 ③同上
白華	①塗膜表面へのアルカリ分の溶出(セメント系材料が十分に硬化乾燥する前に降雨に当たったり、結露環境になつたりした場合に塗膜表面に炭酸カルシウムが発生する)	①低温・高湿時には施工を行なわない
白化(耐水白化)	①乾燥初期の結露又は降雨 ②水洗に洗浄剤を使用した場合の水洗不足	①降雨・結露・降雪が予想される場合は施工を中止する ②水洗いにより洗浄剤を洗い流す
あわ(発泡)	①下地に存在する気泡孔(穴) ②高粘度での吹付け塗装 ③急激な気温上昇(炎天下)による浸透した溶剤の蒸発 ④下地の含有水分	①十分な下地調整をおこなう ②塗材の粘度を適正にする ③適切な溶剤形上塗材用うすめ液を使用する ④下地の乾燥を十分に行なう
発泡(ふくれ)	①下地の巣穴からのエアーの押し出し(断熱性下地が多い)	①ポリマーセメント系下地調整材により巣穴をうめる ②こて塗りの場合、パターン付け前に良くしごく
ひび割れ ・造膜不良 ・低温割れ	①寒冷期における最低造膜温度以下での施工 ②冬季の低温と風	①5℃以下の塗装は避ける ②採暖や養生シートなど行ない施工する
乾燥ひび割れ	①過度な厚付け ②冬季の低温 ③過希釈 ④高湿度条件(水系塗材)	①一度に厚く付けない ②塗装可能な状態まで施工しない ③適正希釈率を守る ④通風。換気をよくする